

IBM ブローカー・ソリューションでのミドル・オフィスの模索



自動化されたサービス・ブローカーの鍵

目次:

- 1 はじめに
 - 2 つのオフィス:統一アプローチ
 - 2 ミドル・オフィスの探求
 - 3 課題
 - 3 IBM®ブローカー・ソリューションが選ばれる理由
-

はじめに

IT が、これまでのメインフレームから転換するのと同様、従来の考え方に悪影響を及ぼすラジカルな変換の真ただ中にあることは明らかです。数年前に「クラウド」がビジネス対応機能として出現して以来、IT で可能な関連性に関する新たな考えも出現しました。

これらの新しい考え方は古いアプローチに挑み、ビジネス・チャンスに後れを取ったテクノロジー重視の組織から新しいワークロードやアプリケーション、顧客を数か月単位ではなく数分単位でサポートできる IT サービスのブローカーへ変わろうと、IT の進化を加速化されるための機能力となっています。

IBM の記事である「クラウド・ブローカーを通じたハイブリッド IT」はこの変化の実装の 1 つを強調しています。IT 組織は最適な結果を実現するため、クラウド機能周辺の IT を整理する新しい方法を考え出す必要があります。

端的に、IT は手動テクノロジー・ビルダーから自動化されたサービス・ブローカーに移行する必要があります。多くの組織はまだ可能性をテストし始めたばかりですが、正しいアプローチを使用すれば、オフプレミスのクラウドを既存の IT プロセス、構造、アプローチに自動的に統合し、俊敏性や冗長性、コスト管理のレベルを実現することができます。

IBM は変換を形作る革新的な概念モデルと、モデルを現実のものにする新しいテクノロジーを提供します。IBM ではこれを 3 つのオフィスと呼びます。



つのオフィス:統一アプローチ

自動化されたサービス・ブローカーとなることは優れた目標ですが、問題があります。ハイブリッド IT デリバリーに対する完全なセルフサービスの自動化アプローチを作成することは、口で言うほど簡単ではありません。これまで、新しい容量を追加するために時間をかけていました。そのため、従来の IT 組織は自動化サービス・デリバリーには適していません。ところが現在、クラウドにより、新しい容量の追加には数か月もかからず、一瞬で行うことができます。これにより、IT には、ビジネスライクに運用する、つまりできるだけ早く顧客に対応するという新しい可能性が生まれます。

IT デリバリーをビジネス機能という点で考えると、さらに分かりやすくなります。フロント・オフィスとバック・オフィスを例にして考えてみましょう。ビジネスには一般的に、フロント・オフィス

とバック・オフィスの両方があります。フロント・オフィスは顧客とのやり取りの窓口であり、バック・オフィスは注文と達成を統合します。IT がビジネスのように運用されるのであれば、IT にもフロント・オフィスとバック・オフィスが必要となります。

しかし、何かが足りません。組織には、フロント・オフィスとバック・オフィスの中間に存在し、その 2 つの間のやり取りを整理し、ソーシングや調達、パッケージング、請求などの IT の「新しい」ビジネス・オペレーション・スキルを提供する「ミドル・オフィス」が存在します。

ミドル・オフィスの探究

ミドル・オフィスを、クラウド・テクノロジーのブローカーや代理店であると考えてください。ミドル・オフィスは技術戦略やソーシング戦略を定義し、実行します。また、マルチ・ソースのクラウド投資の価値を最適化し、現在の(長期的)ビジネス・ニーズを満たすソリューション・アーキテクチャの作成をサポートします。

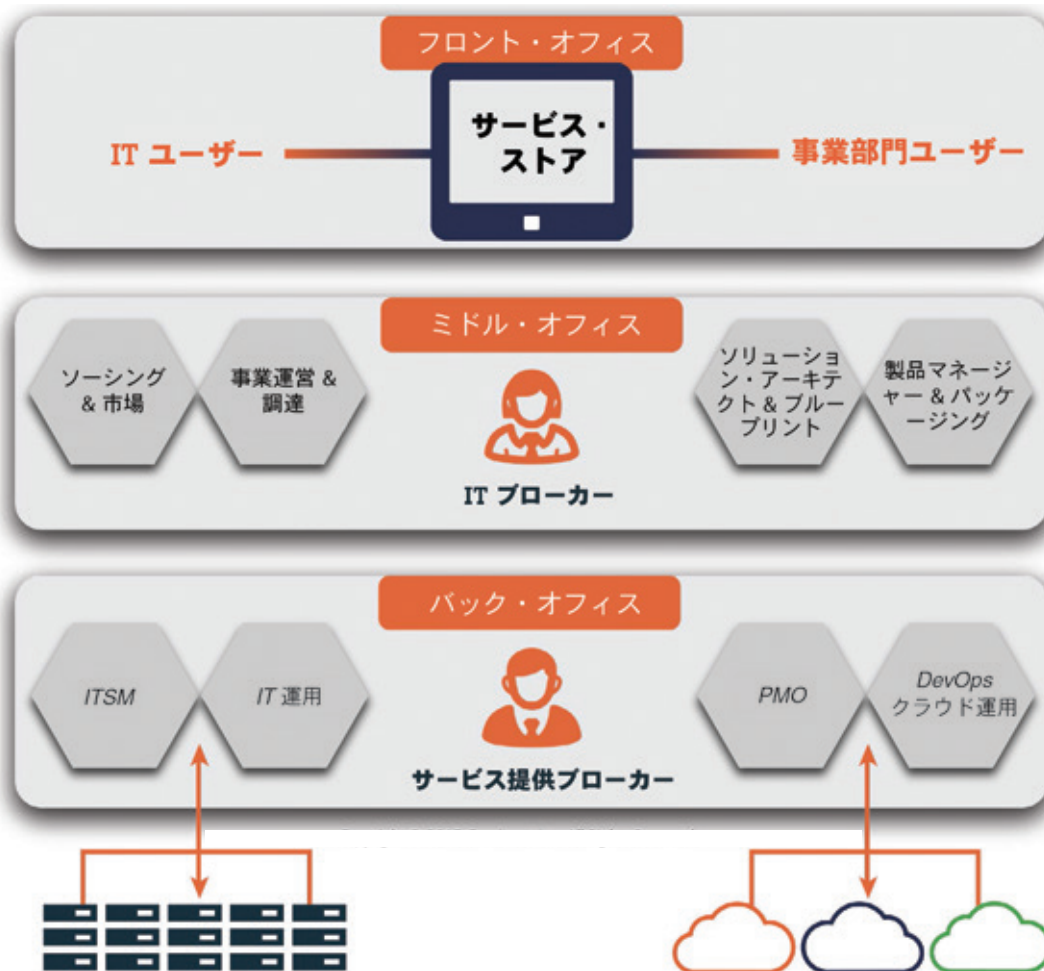


図 1: 新しいミドル・オフィスの概念と既存の業務プロセス

したがって、例えであっても現実であってもフロント・オフィス/ミドル・オフィスは、ハイブリッド IT に向けて進む組織は最終的には IT の新しいストラクチャを構築することになります。

- **サービス・ストア(新しいフロント・オフィス)** – IT を消費する新しい方法。ビジネス、IT ユーザー、および顧客がコストの透明性を備えたクラウド・ソリューションで発注できます。
- **ビジネス・IT のオフィス(新しいミドル・オフィス)** – 優先クラウド・プロバイダーを管理、クラウド・ソリューション(消費のテンプレートやブループリント)を設計、企業クラウド調達や財務管理機能の自動化を担当する、新しいブローカー・オペレーション・グループ。
- **企業グローバル共有サービス(新しいバック・オフィス)** – グローバル共有サービス・グループまたはバリュー・チェーン・コーディネーター。注文されたソリューションをクラウド・サプライ・チェーン内にある正しい規模で適正な価格ののプロバイダーからプロビジョニングおよび実現します。目標は、アプリケーションやインフラストラクチャのブループリントを使用して、クラウド・ソリューションの提供を標準化および工業化することです。

課題

進歩的な IT 組織の多くはセルフサービス(フロント・オフィス)およびクラウド管理(バック・オフィス)に焦点を当てていますが、ミドル・オフィスの専門知識の必要性を認識できていません。ミドル・オフィスは成功に不可欠な要素です。ミドル・オフィスからのソーシングや戦略、およびプロバイダーの専門知識

がなければ、ユーザーは選択できても、賢く選択するための専門知識を得ることができず、IT は注文に対する回答を 1 つ得ることができません。これにより俊敏性や増大するための能力が低下し、必然的にコストが増加します。

ただし、ミドル・オフィスを作ることは容易ではありません。動的な、マルチ・ソースの世界で機能するには、仲介に特化した専門知識が必要です。多くのクラウド・プロバイダーでコスト/メリットの分析を実行、比較し、正しいワークロードに対する正しいクラウドを選択することは困難です。テンプレートやブループリントの作成は困難です。仲介機能は専門知識を提供します。

また、この新しい IT モデルが機能し、マルチソースの世界で戦略や、消費、アプリケーションの納品、サービス、容量を統一するには、IT は IT バリュー・チェーン全体でプロセスやツールの統一セットを通じてハイブリッド IT モデルを提供する必要があります。ハイブリッド IT の管理には堅牢な自動化機能が必要です。プロセスは、セルフサービス消費、ソーシング、調達、デリバリー、運用、管理のすべてで自動化する必要があります。これに必要なスキルの供給は不足しています。

IBM ブローカー・ソリューションが選ばれる理由:

IBM にはハイブリッド IT を可能にする自動化アプローチがあります。オープンな市場の新しいスキルを源とする社内のコンピテンシーや業務を開発するよう組織を促す代わりに、IBM は堅牢で自動化されたセルフサービスのテクノロジーを通じてフロント・オフィスとバック・オフィスを統合するテクノロジーをサポートします。IBM は組織による IT の返還をサポートできます。IBM のアプローチには以下が含まれます。



図 2: IBM によるハイブリッド IT オペレーティング・モデルの提供のしくみ

組織がサービス・ブローカーとなるために必要なツールを提供することで、クラウドの選択肢を整理しながらコストを管理するハイブリッド IT を提供できるようになります。IBM は組織が IT 自体をデジタル化し、アプリケーションやインフラストラクチャ資産を、動的に注文、達成、管理できるよう調節するお手伝いをします。

ハイブリッド IT による新しいチャンスを探究するためには、IT 自体を立て直す必要があります。ステップアップしてブローカーとなり、ユーザーが求める俊敏性、スピード、サービス、専門知識を提供する必要があります。

著者について

Mohammed Farooq は IBM の卓越したエンジニアです。彼は 18 年以上 IT 業界に携わり、エンタープライズ・ソフトウェアを提供する成功した起業家と顧客の両方を体験しています。彼は 40 億ドルの IT 企業である Texas Health and Human Services の代理店で CTO を 7 年間務め、運用コストを削減しながら 300 万人以上のテキサス市民をサポートする CRM システムの返還を成功させました。

Farooq 氏はハイブリッド・コンピューティングの指導者として認識されています。

連絡先: mohammed.farooq@us.ibm.com

詳細については、
<https://ibm.biz/brokerageservices> を参照してください



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in Japan
May 2016

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および Gravitant は、世界の多く国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、「著作権と商標情報」(ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、予告なしに変更される場合があります。当文書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、IBM は予告なしに変更を加える場合があります。すべての製品、サービスが、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能ではありません。掲載されている製品・サービスは IBM がビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。

日本 IBM 製品は日本 IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

確実なセキュリティー体制への取り組みについて:IT システムのセキュリティーでは、社内外の不適切なアクセスの防止策、検出、対応に取り組むことで、システムと情報を保護しています。不適切なアクセスにより、情報が改ざん、破壊、または不正流用される可能性があり、システムへのダメージや他者への攻撃といったシステムの悪用が生じることがあります。IT システムまたは製品によってセキュリティー対策が万全になると考えることは危険であり、1 つの製品またはセキュリティー対策で不正アクセスを完全に有効に防ぐことはできません。IBM のシステムと製品は、包括的なセキュリティー・アプローチの一部として設計されています。そのため、運用手順を追加することがどうしても必要となり、効果を最大限に高めるには、他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBM は、システムと製品が他者による悪意のある行為または不正行為から免れることを保証するものではありません

1 IBM 白書、「Hybrid IT Through Cloud Brokerage」、2016 年、
<http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=ASW12363USEN&attachment=ASW12363USEN.PDF>



リサイクルにご協力ください